

特 246

674

強力内閣の  
待望と顔ぶれ

東京政治公論社

定 價 十 銭

1



\* 0004638000 \*

0004638-000

特 246-674

強力内閣の待望と顔ぶれ

近藤素明・著

政治公論社

昭和 11

ABC

この著作物は、著作権者不明のため、著作権第67条の規定に基づき、平成12年3月24日文化庁長官の裁定を受け使用するもので



特246  
674

# 目次

序文	久原房之助君	(一)
内閣總理大臣	大谷光瑞君	(三)
外務大臣	深井英五君	(八)
大藏大臣	川崎卓吉君	(二)
内務大臣	小原直君	(一四)
司法大臣	安藤正純君	(一六)
文部大臣	永田秀次郎君	(一八)
逓信大臣	秋田清君	(二〇)
鐵道大臣	中島知久平君	(二二)
商工大臣	砂田重政君	(二四)
農林大臣	永井柳太郎君	(二六)
拓務大臣	大角岑生君	(二八)
海軍大臣	川島義之君	(三〇)
陸軍大臣		(三一)

# 序文

解散を憂む微妙な政局の氣運を載せて、全國民の視聽は今や第六十八議會の再開に臨む政府と、政黨との態度に重大の關心を拂ひつゝある。

岡田首相が新春劈頭に於ける三黨首訪問の儀禮を峻拒して、組閣以來の強腰を明示したことは、對議會策に重大の決意の存することを仄めかしたものと、觀察し得ると同時に、政黨の策動に一大鐵槌を下さんとする底意とも解せられる。

併し國民は今日に於ける現政府の跋行的態度に、全幅の信頼を繋ぎ得るであらうか。  
五、一五事件以來、極度に鬱結した政界の妖雲を拂拭して、明朗な立憲政治の確立を期すべき一大使命の下に、齋藤内閣の衣鉢を繼いだ現内閣が、組閣以來、果して如何なる政見と、政策とを國民の前に提示したか。

未曾有の選挙肅正は、一萬一千と謂ふ恐るべき違反者を計上した外、寡聞の吾人に示されたも、只、非常時局擔當の能力なき折紙と、聲譽すべき弱體内閣の醜狀ではないか。

そして一面、政黨も亦、政府と同じく一切の見識と、節度を失つた形骸の譏りを、甘受しなければなるまい。三百名の頭顱を擁して、議會に絶對の権力を持ちつゝ、時局に隻言をも吐き得ざる政友會も、與黨にヤニ下つて、選挙に一陽來復を期する民政黨も、共に齊しく私黨の域を脱して、深刻なる現下の政情と、自己批判に、より鋭俊のメスを揮はねばならぬ。

吾人は徒に政變を好むものではない。況んや其の功績を忘れて、殊更に之を罵り、その存在を否定





せんとするものではないが、國民の存在を無視して、自己保存と政治的遊戯に没頭する、現在の政局に遣る瀕ない公憤を感ずるものである。

政治家への品階は、自惚れの幻影や、一時の感情的所産ではなく、公平な國民の審判であらねばならぬ。

軍縮會議の結末と言ひ、緊迫せる東亞の風雲と言ひ、之に處すべき膨脹日本の新しき政局は、斷じてなまぐらの政治家に委すべきものではない。虚な一切の舊殻と、蝸牛角上の争闘を脱して帝國を一單位とする大乘の境地に、全國民の絶對的信賴を集めた、國民的強力内閣によつて、汎ゆる國難を打開せなければならぬ。

茲に於て始めて立憲政治の完璧を期して、上御聖諭に對へ、下一億萬同胞の安寧と、生活の充實を顯現し得るのである。

これ吾人が赤誠を披瀝して、帝國の重大なる使命を實行し得る不拔な信念を掲げて、大義明分に終始する偉大なる國民的政治家の出處と、無告の民聲を國政の上に反映せしむる國民的舉國政治の出現を翹望する所以である。幸に全國民の賛意を求むることを得ば、本社の喜び之に過ぐるものはない。

昭和十一年一月

### 政治公論社

本社固より大權の發動を私議するものに非ずして、非常時日本を双肩に擔つて起つべき、知名の人士を組上に再檢、吟味して、最後に得たる、結論を録するに止まる。幸に本社の微衷を諒せられんことを。

### 内閣總理大臣

## 久原房之助君

略歴  
山口縣選出衆議院議員  
前逕信大臣

助君を推さねばならぬ。

君は三井、三菱の巨商に匹敵すべき久原總本店の統帥者で、その經營の豪膽さと、廣汎なる事業範圍を持つことに於て、現代その匹儔を見ざる有能の事業家である。

歴史の上に血湧き肉躍る幾多の秘話を載せて、素晴らしい一大エポックを畫した維新の大業は、高杉や、坂本や、吉田の俠骨、才幹、明智に負ふ所勿論であるが、大西郷の非凡の徳望なかりせばと、思ふこと切である。

況して今日に於ける非常時日本は理論や、制度より、眞つ先に人物——新しき大西郷を求めてゐる。小天地に踞踏した陰鬱な政界のトバリを開いて、世界に於ける帝國の存在に確然たる見透しをつけ之を實現する膽斗の如き人物を要求してゐる。この人にして始めて非常時局を乗切り、明日に於ける膨脹日本の政局を背負つて起つことが出来る。その偉大なる政治家を政界に求むれば、人多しと雖も先づ第一に久原房之

政界入りをしたのは田中義一の推舉に基くもので、つひ先達と言はねばならぬが、その僅の間に政界の先輩を踏み超へて、我國政界の最高峰にダイビングした恐るべき勢力と、躍進振りは正に驚異の標的である。

由來事業家は徳望に缺け、徳望高き事業家は技量に於て劣り、兩者兼備の事業家は殆んど稀有と言つて過言でない。本來事業は國家の利益と合一する徳を以て立ち、徳を以て大に



興らねばならぬ管であるが、理想は現實と屢々齟齬し、不徳にして大に榮ゆるものゝあるのが、現下の實相である。かゝる社會は斷じて正常のものとして稱し難く、時代の起伏に於ける畸形的の現象であるが、永い眼を以て之を見れば、不徳にして榮ゆるものは、必ず自然の手によつて剪除されつゝある。茲に於て「徳者事業之基」と言ふ先哲の言に幽遠なる真理の含まれてゐることを痛感する。

x x x

人を害し、世を毒しても目前の利潤を追求するにと専念する今日の事業家と、君は全くその軌を異にし事業經營の根本的意圖を常に大局的見地に据へてゐる。君の全貌を知らんとするものは、先づ君の經營する事業の核心を窺ひ、そこに流露する君の信念を知らねばならぬ。例ば常磐線助川に車を棄て、君の事業的搖



それ丈けに君が三十年來、自分の今日を育くんで呉れた鑛山に對する愛撫と、執着は自分の生命を擲つても惜しまないと明言してゐる。「鑛石の出ると否とに不拘、全能力を此所に

x x x

鑛地帯である、日立鑛山に杖をつくことである。劈頭目を射るものは、怒濤脚下を洗ふ渺茫たる太平洋を眞下に俯瞰して、聳へ立つ大煙突と、一山、一町を包む廣袤の地域に楯比する工場の偉容である。大煙突は鑛毒散逸のもので長さ一五五・七米、四十數萬圓の莫大の費用を投じた東洋一のものである。煙突の最上層を馬車が廻り得ると言ふのだからその規模の大きさは推して知るべしである。各工場は現代科學の精髓を網羅して、その間に一切の工程を完了する。その光景はさながらメトロポリスの映畫に現れる様な、化學の極致を示した驚嘆そのものである。

傾注して、久原の命のある限り、地球をぶつ通す迄掘り下げよ」と。何と言ふ、壯烈、悲愴な言葉であらう。こゝに燃ゆる様な君の一貫した尊い信念を見出すことが出来る。

普通の人間なら君丈けの富と、地位を持つてば門戸を鎖して樂隠居か、はしたない享樂を趁ふのが關の山であらう。然るに君は頭からその行き方を異にしてゐる。事業は國家の爲めに開放し、大衆と利益を按分せねばならぬ、と主張する君は久原鑛業に於ては全國津々浦々に跨り、一萬數千人に亘る尨大な株主を持つて居り、日産に於ても、公開コンツェルンと稱する組織を敷いてその遠大なる抱負の一端を示してゐる。君が内地は勿論、南洋、支那、シベリアの廣汎な地域を縦斷して、巨額の資本を投じ、卓越した材幹を世界に認めしめてゐることは、餘りにも有名であるが、幾十萬の使用人が今日迄只の一度も、ストライキは勿論、不穩の形勢のあつたことを聞かないのは、才能の妙と言ふよりも、君の豪放な親分肌の裡に包蔵せられた、温い徳望の然らしむる所である。

x x x

君の今日の勢威が「事業から湧き出る、資金の水脈によつ

て益々旺盛なる勢力を誇示せしめてゐる」などと、嫉視する連中は正に愧死すべきである。併し金の存在を否定はしない。今日の資本主義的經濟組織の下に於て、金の伴はぬ生活は一日だつて出来るものではない。要はその用途にある。正宗の銘刀も、名人の手になれば、その眞價を發揮しない。金も亦その道と、使ひ手によつて、價値に霄壤の差が出来る。君の如きは正に銘刀を携へた、名劍士官本武藏である。君が國境の差別なく經營する尨大な事業の結果から悟り得た。眞諦は、皇道經濟論である。

その著書には誰にも解りよく、懇切に書かれてあるが一言にして盡せば、非常時の克服、明治維新の完成——昭和維新も同じ——は、三種の神器が皇室の天下をしらしめず、御象徴であらせられるが如く、鏡を表す理智であり、眞理である「經濟」と、玉を表す圓滿と情を意味する「政治」と、劍を表す力である「軍部」との精神が、一體となつて一切の障壁を抜いて、虚心坦懐に發揚されるのが、三位一體の政策であり、その味ひが天皇精神の發揚であると言つて、エゴイズムの悲哀を論じ、國民平等な利益の均霑を主張し、皇道精神に基く政策の遂行が、全世界の幸福なる所以を説いてゐる。



君の所論の様に、皇道精神が萬世不滅の憲法であることに疑ひはない、政治も、經濟も、思想も此の精神を除外して絢爛な實を結ぶことは出来ぬ。遠大な抱負であり、味ふべき深い含蓄がある。

x x x

君が田中内閣以來、一國一黨主義を固く遵奉して、政治の對立抗争を防ぐが爲めに政黨の聯携を畫して棄てないのも、君の思想の中に脈々として波打つこの磐石の根柢があるからである。「君の一國一黨主義は、茫漠として曠野の如し」と評する向には、まだ君の大度量の内に飛び込む氣概と、ゆとりを持たない從來の陋習になづんで、何時でも重箱の隅を楊枝でつゝいてゐる醜態である。

君が國策の研究に没頭する精進は、驚くべきもので、本も見る、意見も聴く、問題に付ては飽く迄研究に、研究を重ねて、深謀遠慮の上に最後の斷定を下す。これが實行に當つては實に大膽に、その蘊蓄を傾けて所論を持って譲らない。之が君の政界に於ける横紙破りであり、鬭争の唯一の存在であると言はるゝ所以である。研究を重ねて行くから、豊富な意

見を堂々と述べるが、一度衆議として決定した以上は、實に從順にその統制に服する。此の點はどうしても凡人の企及し得ない、磊落な特質である。よく見る様な自説に拘泥して、何時迄もツムジを枉げる様なケチ臭い片鱗は微塵もない。

x x x

君が持つ大きな鬭争的形態を率ひて、政界に動く勢威は常に早天の入道雲を思はしめる。その將來に極めて大きな期待を抱かせるが、その出處行藏は坦々砥の如しである。大臣病患者でもない、と言つて總裁的慾望も見受けられぬ。では政治を舞臺として金儲けをするのかと言へば、その點では採算を割つた支拂勘定ばかりを續けてゐる。只明に讀めるものは一刻もヂツとしてゐられない仕事への旺盛なる氣配である。

事業は一切を舉げて、智謀の人鮎川に委せ切つて、政治に没頭するかは君は、矢張り多年實業界で培はれた、事業熱が脈々としてその胸中に漲つてゐる様だ。

第二次若槻内閣の時、君は内外の大勢を案じて、多年の宿論である協力内閣出現の必要を痛感し、民政黨の富田幸次郎と紳士協定を結んで、その實現に奔走した。間もなく若槻内

閣が倒壊して、大命が大養毅に降下するや、君は直ちに大養を訪問して、協力内閣組織の必要を力説したが、大養は單獨内閣組織の素志を翻さず、却つて君の内閣を懲憚した。前約を食むとして憤激した君は、席を蹴つて内閣を拒否し、翌朝直ちに幹事長の職も辭した。反對黨の富田に對する義理を重んじ、内閣を拒否する所など、大臣病患者には一寸眞似の出来ない水際立つた藝道である。富田もその責を負ふて、安達、中野等と共に民政黨を脱黨した。爾來富田とは肝膽相照す仲間となり、その後も協力運動を棄てず、進んで政黨聯携の直接運動に迄進むに至つた。

x x x

自己の意見を樹て、一定の軌道を設けて、驀進する場合、君の眼中には利害も、權勢もない。唯目的に向つて邁進する直情徑行の樂しみがあるのみの様である。君の眞價は權勢に迷ひ、利害に溺るゝ俗流政治家の水準を超越し、地位や黄金を白眼視して、ひたむきに仕事を樂しむと言ふ一點にある。

君には實に得難き魅力がある「久原には財産はない、が有用の人物を棄てるには忍びない」と言つて、俠漢の骨を拾つ

てやる。君の傘下には今一旦緩急あらば、身を挺して物の役に立つと言ふ、生き／＼した人物が盟を結んでゐる。それは政界と、財界とを通じて鬱結した一大勢力を形造つてゐる。風雲を望んで起つ君は、この隠然たる勢力をバックに、剛復慧敏で、然も強力なる鬭争心を兼ね備へて、政局を達觀し縦横の機略を持つてゐる。近代に得難き逸材であり、前途の計り知れぬ存在である。

黒船の襲來は武門專制の夢を破つて、幾百の殉血に彩られた時代の潮は澎湃として、王政復古の大業を翼賛した。

この槍舞臺に絢爛の功名を擧げた、幾多の俊傑を先輩に生を享けた君は今、伊藤、山縣の抱負と、西郷の人望を共に負ふて、明治新政を玉成すべき昭和の大業に、天賦の資性と、畢生の勇氣を鼓して邁進しつゝある。

君の清濁併せ呑む豪膽と、徳望を以て昭和維新の難關を突破することも、さのみ難事ではあるまい。大人自重して天稟の資性を萬分に發揮せんことを。

x x x

x x x



大臣

# 大谷 光瑞君

略 歴

前本願寺派管長

「齋藤、岡田と、これで舉國一致内閣の正體も分つたし、その無能振りも試験済みとなつた。それかと言つて、今の政黨を見渡しても日本を背負つて立てる人物は見當らない。全く死人同様である、官僚藤井等は、高橋が尻押しをするからやつて見ると言はれても、持ち切れなく斃れたではないか。偉人が出なければ治まりがつかぬ」と豪語して、帝國の生命線を爲す、南洋、支那、滿蒙を始め海外に幾多の事業を經營し、産業開發の指針となつて悲風、慘雨、國家の爲めに盡瘁する傑僧大谷光瑞君は蓋し法門に始めて見る豪雄である。

君が國策殊に海外政策に對する高邁なる抱負と識見とは正に當代隨一と稱するも過褒でない。君の主張は單なる机上の空論や、素通りの素見でなく、世界を家として三十年、人智の及ぶ限りを盡して土と闘ひ、天を仰いで獲たる貴重の體驗

が物語る至上の教訓である。卑近な一例を舉ぐれば、君が日露戦争以後三十年、滿洲に腰を据へて農業の開發に努力した結論が「滿洲の農業は駄目だ」と言ふのに、内地から何も知らぬ學者を呼んで、お茶を濁してゐる。滿洲の農業は有望であると言ふ様な出鱈目を言はせ、太鼓を叩かせて、農業移民を入れるが、入れた移民は悉く失敗の連続である。學者は嘘をつけばその場はすむか知らぬが、移民は土が相手の農業である、學者のやうな胡麻化しは土の方で受けつけないのだ。君は叱咤して言ふ。「滿洲を知らぬ邦人は、先づその龐大な面積を見て驚き、我帝國とは比較にならない程の沃野だと勘違ひして、滿洲の農業は前途有望だと速断するのが癖だ、そしてこの杜撰極まる調査と目撃とによつて、輕々しく滿洲に投資する人間も少くないやうだが、その結果は果樹のやうな多年性

のものを除くと概ね失敗である。併し私がいくら望みなしと叫んでも大部分の人はまだ私の言ふことを信じないで、甚しいのになると、お前のいふことは國策に背くと言つて非難する人さへある。

私の言ふことが、國策に背くか背かぬか、それは私の知る限りでないが、私の知つてゐる唯一のことは、我帝國が如何に強大であつても、地球の太陽に對する角度を改める事は出来ないと言ふことだ。如何に國策を以てしても、舉國一致を以てしても、地球の太陽に對する角度を改めることの不可能は、斷言して憚らない。

假りに私が百歳以上生きて、舌を吐き、手を揮ひ、口に筆に、滿洲の農業は有望だと叫んでも、この角度の改まらない限り、私の言ふ通りにはならないのだ。



農作物に對する二つの害、即ち寒氣と、乾燥とは、この角度から當然に起ること、人力ではどうすることも出来ない。苟しくも地球の太陽に對する角度を今の儘にして、滿洲から寒乾の兩害を除かうとしたら、ベンゴール灣から北平洋に通ずる地面をまつすぐに削るより外に方法がない。

この事の困難は、角度を變へることの困難と大差ないのである。寒害も、乾害も皆アジア大陸の中心に海のない點から來てゐるのだ。假りにシベリアが陥没して海となり、ゴビとタクマカンの兩沙漠が地中海となつたら、恐らく滿洲の氣候は北米合衆國と同じ

やうになるだらう。このことが皆行はれないとしたら、滿洲の農業は有望でないと言ふ、私の言葉が不幸にして至當であるといはねばならぬ」と慨嘆して、細密の調査を舉げて牧畜と農産加工を主とする、農業の副業を奨励してゐる。又水利



を興すの

現地報告でも、政府の視察委員でも、必要政策的に取扱ふ弊害のあることは、國家の悲しまざるを得ない。

x x x

今日に於ける我植民政策は、膨脹日本の國策を解決する唯一の生命線であると言はねばならぬ。經濟日本の進路は、日滿兩國の提携から密接なる關聯を保ちつゝ、北支から印度、南洋、濠洲の諸邦に及び進んで世界的進出が企圖せられねばならぬ。君は地球上に存する天賦の資源を、荒蕪に附することが全人類の不幸であるとして、植民地再分割論を主張し富源の開拓を強調する。然してその豊富なる識見は、農業政策の徹底から、食糧人口の諸問題に及び、重要國策の汎ゆる部門を總ての角度から検討して躍進日本の最高峰に活躍する。

「國策を出せといはれれば、いつでもその持ち合せはある。只それを實行する程度の強力な政府がありさへしたら、よいが、尻つぶり腰の後押しばかりは御免蒙る」と言ふ豪腹の君が全幅の經綸を掲げて、廟堂に怪腕を揮ふ日を吾人は翹望する。「大谷は商人ではない、目的とする所は私にあらすして國

にあるのだ、苟も國家を思ふ至情に至つては、何人に對してもヒケはとらぬ」と、火の様な意志を明示する。

君が京都西本願寺の嫡流に生を享けて、學習院卒業後、歐洲に留學して研鑽を積み、歸朝後は六甲山に寓居して、深く内外の經典を攻究し、多量の子弟を薰陶教化して、宗務の進展に努め、其間屢々印度、西藏を探險し斯學の淵奥を極めて學界に寄與した功績は實に偉大で、明治三十六年明如上人の示寂後本願寺派管長として一山の信望を擅にした。

併し君の透徹した宗教觀は、その燃ゆる様な報國の赤誠と相俟つて、襖の風もいとふ長袖、勤行の殿堂から、朔風面を打つ荒波に乗り出したのである。爾來三十年、梅風沐雨に枕して、現實に生きる、人と國家に送る生命の源泉を深遠の佛教哲理に求めて、集積發表せられるのが不朽の經典を爲す國策の全貌である。君が不撓不屈の研鑽になる力強い政策が行はるゝ時、君を生佛として、讚仰隨喜する全國八百萬の信徒と一萬の末寺は翕然として君の前後を守護するであらう。

天正年間に於ける本願寺の由緒ある歴史は語る。宗教は汎ゆる國策の根柢をなさねばならぬと。全山風を臨んで起つ時である。

### 大藏大臣

## 深井英五君

略 歴

日本銀行總裁

二十二億を計上する未曾有の豫算から、約半額を要求する龐大な軍事費は、非常時國防の充實を環つて、逼迫せる國內産業の確立と共に、非常時財政の深刻を物語つてゐる。「國防は國富よりも重大なり」と、アダム・スミスは喝破してゐるが、兵農兩全は國家を守る唯一の安全瓣である。

今日に於ける世界經濟は、歐洲大戰後の恐慌の波瀾に今尚揉まれつゝあると言はねばならぬ。白人死闘のものがきも、畢竟從來の堡壘強化の域を脱して、新天地に躍進する經濟的進路の相剋に過ぎない。「國權の向ふ所商權之に従ふ」とは昔も今も同様である。我國に於ては近時滿洲事件の勃發に關係する、軍備充實の必要と、不況打開の爲めの經費によつて、不可避的に財政インフレを招來し、金融インフレとも化して經濟界に一陽來復の機運を齎したかの感があるが、斯の如き跋

行的現象によつて、膨脹日本の求むべき進路と、經濟力の充實を企圖することは出來ぬ。

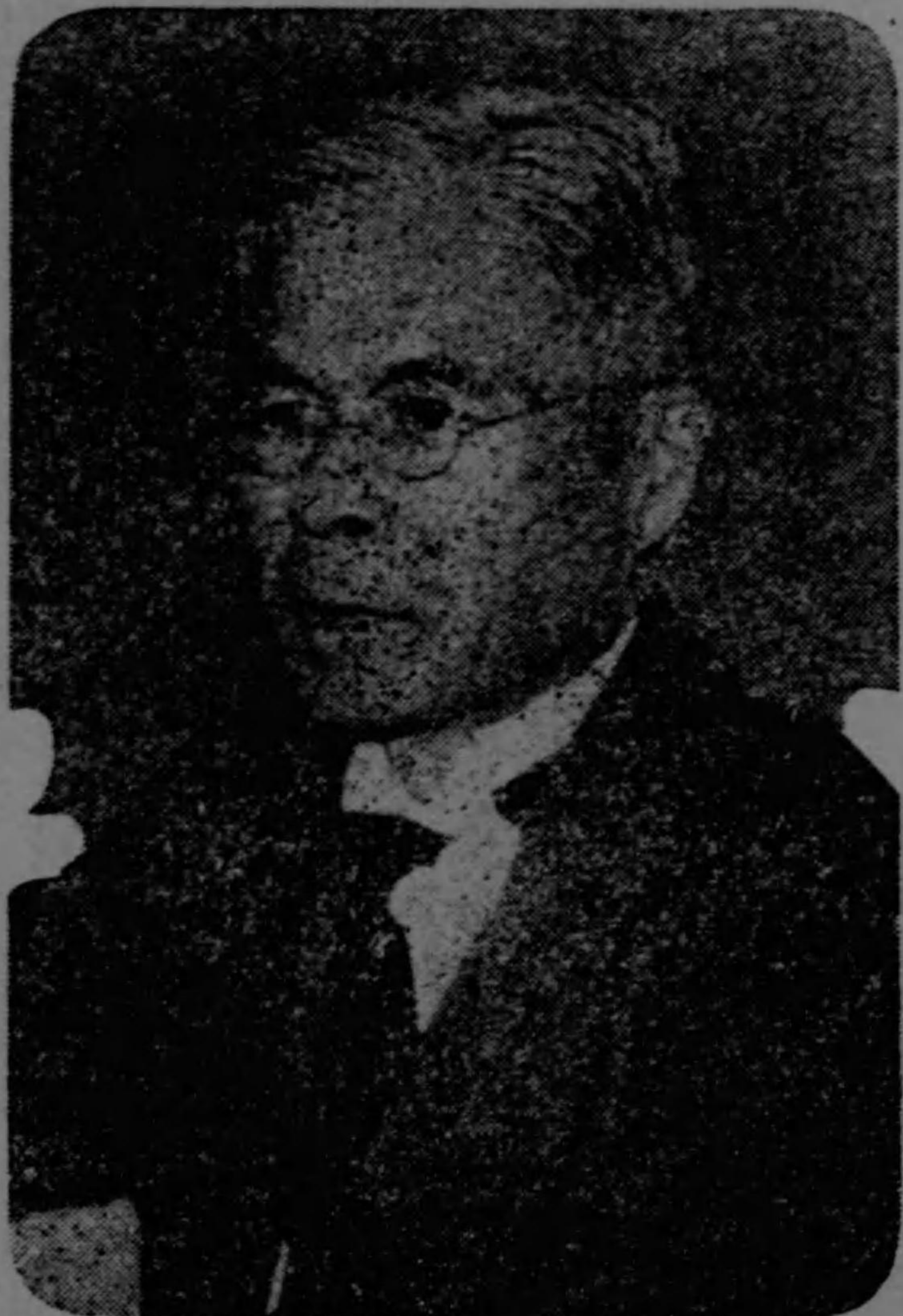
現在の貧弱な經濟力を以て、東洋の英國を氣取るには、餘りにも富の程度が、低過ぎる。老藏相がそれを氣にして、資本の蓄積や生産力の増大をやましく言ふのも無理はない。今日の處では何と言つても、空威張りの範圍を脱し得ないので、經濟力の充實は今日に於ける緊切な問題である。この問題を切り離して軍備の充實を企圖することも結局に於て不可能であり、若し經濟力を無視して軍備の充實を圖れば、悪性インフレを招來して國民經濟を破壊し、戦はずして負ける結果となる。

茲に於て強調せなければならぬ經濟方策の基調は、一國の存榮上基本を爲す、諸産業の確立を圖らねばならぬ。よし今



後通商自由の再現を豫想するとしても、國內に於ける諸産業の確立は、斷じて等閑に附することを許さない。近時所謂非常時局の波に乗つて進出の企圖せられつゝある軍需産業の如きも、一時の泡沫的殷盛でなしに、確固たる基礎の上に助長の方策が講ぜられねばならぬ。事は單に狹義の國防的見地に止まらず、廣く國民的給養の見地に於て考慮せられねばならぬ。緊迫せる今日の問題は中小商工業の問題であり、農村問題である。

更に之等産業の進展的過程の充實から、大乗的見地に立脚して、世界人類の平和と正義との名に於て新しき通商自由の將來を各國に要請し、その第一基調として世界資源の合理化を高唱せざるを得ない。次に特に力説したいのは日本の地理的地位の再検討である。今更言ふ迄もないが、日本の亞細亞に於ける地位は、世界資本主義勃興期に於ける、英國の



地位と略々同一である。否更に日本が印度、南洋、濠洲等の諸邦と、その最近の位置に於て存在することを考へたならば英國の地理的地位に優ること大なるものと言はなければならぬ。併して之等の諸邦が經濟發展の段階に於て、遂に我國より後進の地位にあることは、我國の前途に一大光明を與ふるものである。即ち日本經濟は此等諸領域との密接なる聯絡の下にその進展が企圖せられねばならぬ。既に日滿兩國は不可分關係に於て、相互依の經濟方策が著々として講ぜられつゝある。

吾人はその政治的進出を云爲するものではないが、經濟的には是非とも北支より中支、南支に及び更にヒリッピン、蘭印、シヤム、印度等に延びて、日本經濟の圏域が、確固たる、地歩を占むべきことに、萬全の方策が講ぜられねばならぬ。資本主義の再強化時代とも稱すべき今日の財政を、世界

に於ける日本の經濟的見地から、的確な見透しをつけて斷々乎として之を行ふ力量の人を要望する。財界の惑星、松方幸次郎の存在もいゝ、堀切、大口の百戰練磨の名將を迎ふるもいゝ、結城の守成にも多分の期待がかけられる。

併し今日の高橋財政を委して、非常時の潮を乗り切るものは先づ第一に、深井英五君に指を屈したい。土方總裁の後を襲つて十三代目日銀の總裁である君は、頭腦明晰なることは高橋藏相の折紙つきで、その金融政策は日本第一の定評があり、財界切つての學者としてその權勢を擅にしてゐる。

君が無愛想で、理窟屋で、冷くて、融通が利かぬと言ふので、株式方面から敬遠されてゐる様だが、それは殊更に君をしふる皮相の見解である。成る程君は、財界人の氣襟を取る程の追蹤も、巨頭の門に叩頭する阿諛も斷じてしない。その代り天下誰一人掣肘を受くるものゝないことは、普通人の企及し得ざる、明朗の天地である。融通性に乏しい様な顔付の君も實は、夏目漱石の「黒い目茶色の目」に出て来るモデルの様な情操豊かな長者である。君は高崎松平藩の門閥に生を享けて、單身笈を東都に負ひて、始め民友社に入り、二十五年國民新聞に轉じて、侃諤の筆を載せ、常に議會記者として奮

闘し、日清戰爭の勃發するや從軍記者として、戦地を馳驅し、傳絶、迅速の文章を發して、文名を謳はれたものである。二十九年文豪徳富蘇峰に従つて、親しく歐米各國を巡歴した。止まること七年、政治、經濟に亘る汎ゆる部門を検討し、溢るゝ新知識を包んで、三十五年に歸朝した。

今日君が世界的經濟通として、覇を唱ふるも此の間に培養せられた學識と、見聞に負ふ所多し。歸朝後卓越したその才幹を松方正義に知らるゝに及んで、三十歳で山縣内閣の松方藏相の秘書官に拔擢せられて技に操觚界の足を洗つた。一年の後松方侯より日銀總裁山本達雄男に推薦せられて、三十四年の秋から年俸千二百圓を以て日銀の人となつた。

かくて調査役、秘書官、國債局長、營業局長、理事と累進し、その間ヴェルサイユの平和會議、ワシントンの軍縮會議、ジエノアの國際經濟會議に、帝國全權隨員として出席し、その蘊蓄を傾けて帝國の爲めに萬丈の氣を吐いてゐる。君が國際經濟通としての日本一の名稱を辱しめず、不偏不黨、帝國將來の財政を達觀し、世界的進出の氣運を醸成して、國內産業の完成に資すると共に、國家の財政を泰山の安きに置く日のあることを君の靈腕に期待する。



内務大臣

川崎卓吉君

略歴

勅選貴族院議員  
前内務政務次官  
前内閣書記官長

民政黨の將來を卜するものは一に繋つて川崎卓吉君の存在にある。君の最近に於ける政治的聲望は黨内に匹敵するものなく、町田に繼ぐ總裁として萬人の異論のない所である。

君は、時代の政治意識を把握する能力と、之を實現する戰鬥力とを兼備する點に於て、中央政治家中の雄なるものである。

然も官僚出身の君が、幾ばくもなく政黨生活に於て、完全に政黨の要諦を心得、世故と人情の表裏は、政黨生え抜きの者よりも遙に民衆政治家の型にはまり、垢ぬけした清新さを思はしめる。

短身横太りのガツシリした體に廣い額、伶俐に燃ゆる眼光引締つた口を持つ君は、全身から溢れ出さうな、智謀が漲つてゐるのを見受ける。

帝大を優秀の成績で卒業した君は、内務省を振り出しに、知事稼業を勤め、加藤高明子の本據、名古屋に迎へられて市長となつた。その後加藤内閣の警保局長、濱口内閣の法制局長に歴任し、ロンドン會議の時、若槻全權に望まれてロンドンに顧問として同伴した。歸朝後、第二次若槻内閣の書記官長を勤めた。齋藤内閣の時、内閣側から民政黨の代表として

懇望せられたが、若槻總裁のもだし難い頼みもあり、君自身も總裁の側近にあつてよき相談相手となる考へから、永井に大臣の椅子を譲つた。

政黨混亂期に際し、若槻が民政黨總裁として、一糸亂れぬ統制の妙腕を發揮してゐる際に、君が己を殺して若槻に致した努力は、見逸すことの出来ない功績である。志士仁人は己を愛して、人の爲めに爲すと言ひ、「人は己を知る者の爲め

に死す」と言ふ。澎湃として社會の各層を掩ふ、功利主義的思想の中に、况や權勢の亡者の如く思惟せらるゝ政界の眞ツ只中に在つて、屹然己を棄て、榮位を棄て、平然己を知る人の爲めに行を共にするが如きは、君の様な情理兼備の君子によつて始めてその範が示されるのである。

現在町田總裁の副總裁格として一切の黨務を執掌し、兵站部に大きな力となつてゐる。選挙の苦勞は一度も嘗めず、純然たる官僚育ちであるに不拘、官僚らしい香ひの尠しもない解脱さを持ち、性格はその風貌の如く重厚、頭腦は頗る明敏、民政黨に不可欠の存在である。政治家としては珍らしい讀書家で、多忙な日常にも不拘、常に暇を見て内外の書籍に目を通すことを忘れない。

政治家の通弊として、誰しも賣名的氣分と言ふか、自己宣傳の氣分と言ふか、より以上に自分の存在を世間に吹聴したがる癖があるが、君に於てはそれが微塵もなく、必要な時に



於てすら黙して語るまいとする。苟も自己宣傳に類することは斷じてしない。之が却つて、君の重厚さを倍加して居る様

に感ぜられて、奥床しい。若槻内閣の書記官長時代、貴族院方面での難問題には、必ず君が出掛けて諒解運動を試みたが平素無口の君が、切に熱情をこめて、情理を盡す敬虔、眞摯の態度には逢ふ者が必ず敬服した。

若槻内閣が君の爲めに危機を免れ得たことは幾度あるか知れない。黨内に於ける多くの僥倖を抜いて君に、不動の嚆望が懸けられてゐるのも、情理兼備へたる重厚明敏の性格によるものと見ねばならぬ。誰でも一見してビタリと来る様に斗の如き膽と、あの智謀の深大を象徴する相貌は、君の政治的將來の如何に輝かしきもので、あ



# 司法大臣

## 小原直君

略 歴

現司法大臣

一國を擧げて今日程、綱紀の頹廢を來した時はない。大官巨頭は恰も官邸と刑務所を往復する醜態を演じ、全國の犯罪指數も亦年を逐ひて、恐るべき累進率を示してゐる。資本主義的重壓の下に蠢く失業者の増加は、輕薄なる世相と共に自然犯罪に拍車をかけて、益々憂ふべき傾向を辿り、上は閣臣を始め、勳位奏請の大官より、官省に至り、甚だしきは檢察司直の府に如何はしき醜類を輩出して、司法の權威を疑はしむる今日の傾向は、誠に國家民人を毒する病竈と言はねばならぬ。極左右の量的檢舉と言ひ、選舉違反の大量生産といひ國家の根柢を蝕む之等のパチルスを勦滅することは、健全なる社會の爲めに喜ぶべきことに相違はないが、かゝる妖雲に圍繞せられた、今日の末期的症狀に悲しむべき澆季の惡世を追想する。

此の間に處して、綱紀を正し、社會の安寧秩序を維持して狂瀾を既倒に廻し、國民をしてその途に安んぜしむるものは獨り司直の手に俟たねばならぬ。裁判は、長くも、天皇の名に於て行はるゝものであるから、常に至公、至平、嚴肅、明澄で苟も世の疑惑を招く様なことがあつてはならぬ。況んや情實や、感情や、威迫によつて檢察、裁斷に寬嚴の取扱ひが行はるゝことがありとすれば、國家の威令は何によつて保全することが出来る。これ司法官が、憲法によつて、その身分を保證せられる所以である。

岡田内閣が帝國人絹、昭和製鋼、私鐵疑獄等の大事件の後を繼げて、綱紀の肅正を一大政綱に掲げた關係上、司法大臣の選任に最大の注意を拂つた。たゞ「悪いことをしない人」は世に決して少くない。愚直無能の人間はルンペン仲間になつ

て有り餘つてゐる。「有能にして謹直なる人」之は誰にも必要なことだが、司法大臣には特に必要不可欠の條件である。

司法大臣は檢察の統帥であるばかりでなく、具に社會情勢を認識し、政治の歸向を知り、人事を總ぶる手腕があり、斷じて行ふ勇氣がなければならぬ。

君は公生活に於てのみならず、私生活に於ても極めて謹言、嚴肅の態度で人をして襟を正しむる。

環境は性格を作り、生活は習慣を養ふ。君は常に、司法の事務に執掌するものは先づその環境を選び生活を直さねばならぬと強調し、自己の公生活は固より、私生活に於いても、不正なものには近づき

もせず、又近づかせもせぬ。その日常生活は、極く質素であるが、實に端麗、謹直である。人間の手腕は如何に非凡であり、有能であり、熱心であつても、環境が許さねば自由に天賦の技能を發揮することは出来ない。君が永い司法官生活の間に植え付けた不動の信用は今司法大臣として、思ふ存分



にその手腕を伸ばし得べき絶好の機會に置かれたのである。

君の使命は即ち岡田内閣の生命であると言ふことが出来る。

現在君を中心にして、司法省の最高首脳部を形作るものは殆んど君と同期の俊才である。民事法の泰斗、大審院部長池田寅二郎、聽て司法大臣の榮職にも就くべき皆川東京控訴院

長、立石名古屋控訴院長があつて水魚の交りを結び、君の靈腕に力づけること百倍である。

君は實に細心の注意と、中正穩健な思想を以て人に接し、事務に當る。その性格から極度に事務の滯滞を嫌ひ、追つかけに輻輳するのを、流れる様に運んで行く。君は就任匆々先づその勇氣と妙腕を

發揮して、司法部陣容の編成替へを試みた。今後その不撓不屈の事務的才能を以て、目前に迫る大事件の後始末を如何に處理するか、剛直至誠の利刀に綱紀の紊亂をどうなき立て、行くか、社會の人心は國民の信望を一身に背負つて立てる君の健在を期待する。



文部大臣

# 安藤正純君

略 歴

東京府第三區選出衆議院議員  
前文部政務次官  
文政審議會委員

嵐の様な迫害の中に毅然として、立正安國論を叫びつづけ、た不世出の傑僧、日蓮の意氣を吾人は今、政界の君子安藤正純君に見ることが出来る。

昭和の初頭は將に元寇來を彷彿せしむる、外交の危機であり、爛れ切つた政治家への一大受難時代である。とりわけ昭和七年以後、政治家に對する輕蔑の眼ざしと言動とは社會の各層を通じて、汎ゆる場面から盛り上げられて來た。「日本の國家を毒する者」と言ふ冒頭詞で、政治家に對する呪咀の聲が放たれた。

この憂ふべき錯覺と怨嗟に伴ふ、政黨の潰滅を思はしめる四面楚歌の裡にあつて、敢然身を挺して政黨の爲めに萬丈の氣を吐き、純真なる政黨人の面目を、昭如たらしめた人に安藤正純君がある。過ぐる第六十四議會の壇上に於て、君が現

下の政情と、軍部を捉へて、從來萬人の齊しく言はんとし、言ひ得ざりし沈黙の重大問題に對し、大膽な批判のメスを揮ひ、堂々の論陣を張つて、政府と、軍部とを戦慄せしめた物凄く武者振は、未だに吾人の記憶から去らない。

君は續いて第六十五議會の劈頭、政府に向つて三大質問の大爆弾を投げつけ、綱紀の紊亂、官僚政治の頹廢、軍部の獨裁思想、を忌憚なく痛撃し總理、内相、陸相の顔色を青からしめ、數次其の答辯に窮さしめた膽力と、雄辯とは、實に六十五議會の白眉であつた。

更に君は同議會に於て前演説と共に政友會を代表して「社會不安に對する緊急質問」を爲し、滔々として、フアツシヨ的思想の跋扈に伴ふ國民自由の拘束を難じ、一々實例を引證して、完膚なく言論の壓迫を痛撃した。國家民人の爲めには

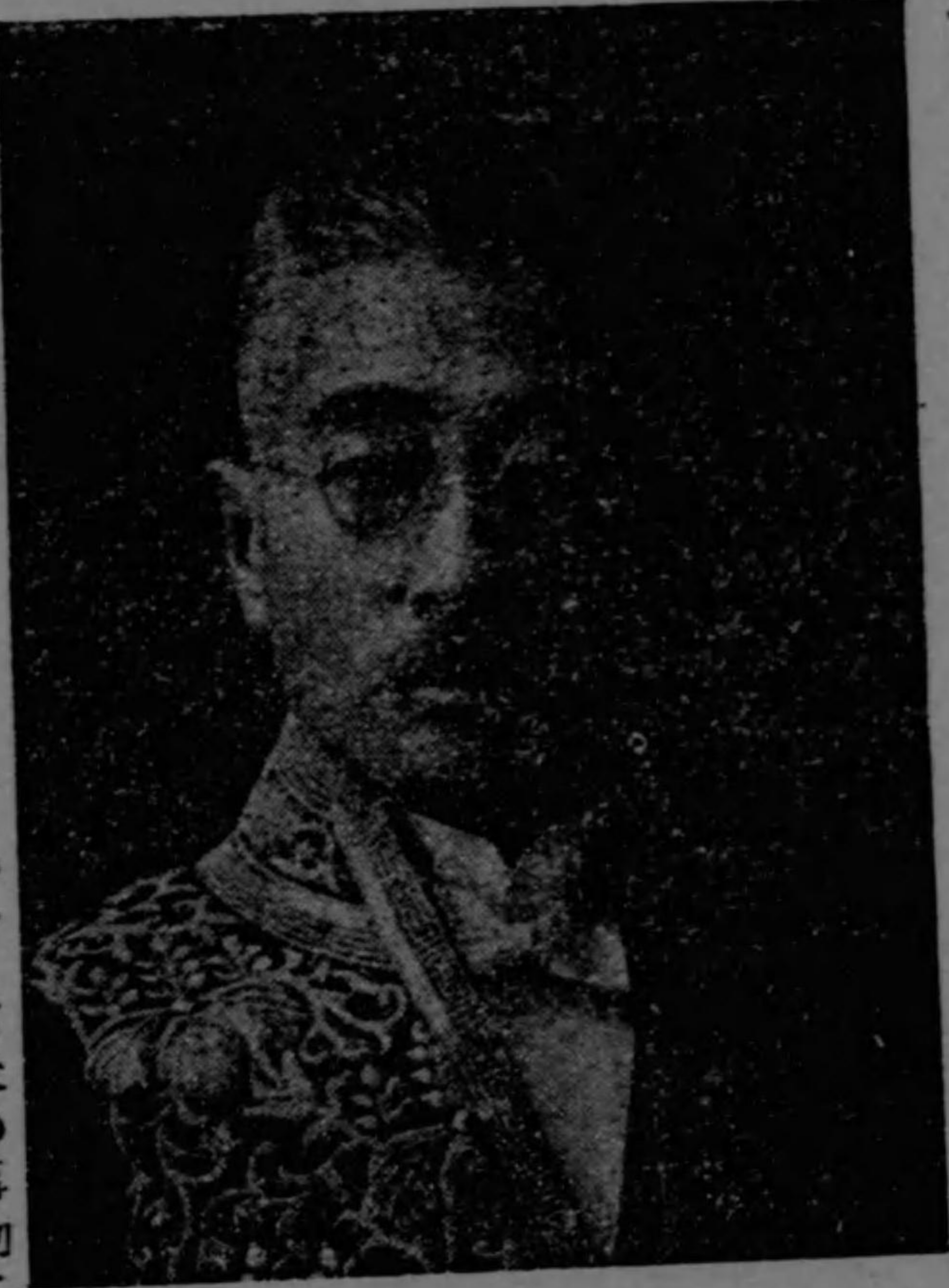
何物をも恐れざる不動の構へは議場を壓して、思はず讃嘆の聲を放たしめた。

これは君の雄辯や、學問の力もあらうが、それよりも大死一番、國家を思ふ赤誠の迸りが、骨を刻む自己批判ののち、悟り得た大乘の境地に、世界を衝動せしむる不拔の信念が脈々として君の五尺の體の中に包蔵せらるゝの力である。

果せる哉、天下の輿論は、翕然として君を迎へ、政界は人なしとさげすまれた、長い陰鬱のトバリを脱して、ほゝ笑ましい陽光に接した。

かくて打ちのめされた、政治家の蘇生と、政黨の復活に清新潑刺の光を投げかけたのである。

君が今、政友會の最高幹部とし、中堅闘士として第一線に華々しく活躍して、名實共に同黨を牛耳つてゐることは、餘りにも有名な事實であるが、又鈴木總裁の帷幄から寸時も離すことの出来ない、重要な存在である。



君が議會で獅子吼する堂々の論戦を見る時に、吾人は如何にも痛快な政黨人を聯想するのだが、その反面に、君がチャイナリストとして、大朝日を主宰した敏腕と、宗教家出身として温い佛陀の慈悲に、幾多の教育事業並に、教化事業を経営して教界に盡す功績と、之に培はれた不動の政治的信念を見逸すことが出来ない。

君がチャイナリストとして得意の盛名を馳せたのは、東京朝日新聞局長と取締役を兼務して、大阪に常住する村山社長の代理で、大朝日の全機能を指導、統轄して所謂、東朝に於ける君の黄金時代——安藤時代——を現出した當時である。

侃諤の筆陣は已に世に定評がある。親しく歐米の事物にも通じてゐる。八面玲瓏の手腕と稱して敢て過褒でない。

白髪瘦身の君が、ひた／＼と迫る熱度、在官當時から教育、宗教方面に捧ぐる功績は枚擧するに暇がない。



## 遞信大臣

# 永田秀次郎君

### 略 歴

勅選貴族院議員  
前東京市長  
拓殖大學校長

近代的政治家の典型として政界に君臨した、故後藤の懐刀として、東京市政に縦横の腕を揮つた、情操豊かな君子に永田秀次郎君がある。元來政治家は、東洋流の豪傑を以て自ら任じ、敢て風流を解し様としない。寧ろ利権の争奪に浮き身をやつして、高潔な趣味の殿堂に、人間味を味はふと言ふ様なゆとりを持ち合せない。自他共に大御所を以て任じてゐる様な人でも、平氣で誤つた文字を揮毫して得々としてゐるのだから、他は推して知るべしである。此點では偏狹と迄言はれた犬養木堂は實に驚くべき多趣味の人で、而も殿様藝でなく堂々一家の域に這入つてゐたのであるから感心させられる。「洒落を解せぬは下等だ」と博士和田垣謙三の様に定めて終ふのも勝手だが、人生は眞面目の反面に於いて、洒落をかみ分ける位の餘裕があつて然るべきだ。

毛の生えた様な利害や、權勢の爲めに目の色を變へて狂奔し、ジョークやユーモアを解しぬ得人間を、決して高等と謂ふ譯には行かぬ。「憂勤は是れ美德なり、太だ苦しめば則ち性に適ひ、情を怡ばしむるなし」と古人も言つてゐる。人間に餘裕がないと、神経衰弱になり、社會に餘裕がないと禍亂を萌す。之は古今東西を通じて悖らぬ千古の眞理である。今日に於ける日本の病患は各層を通じて、餘裕のない點である。之に對して或は斯う言ふ人もあらう。「非常時にそんなことが言つてゐられるか」と。成程内外の情勢は極めて緊迫した、古今未曾有の非常時である。併し非常時であればこそ紳々の餘裕を以て之に當るのが、大國民の襟度でなくてはならぬ。神経衰弱的な狂躁を以て非常時を乗り切るのは、落陽を返すよりも猶困難である。この餘裕のない、ひからびた状態を

如實に示してゐるのが今の政界人である。鹿を逐ふ獵師、山を見ずの譬へに洩れず、夢うつゝにも權勢と資金を求めて狂奔し、遂に牢獄に陥没する政治家の如何に多きことか。定まりかゝつた大臣の椅子が今一足の所で止つて、腦溢血になつた政治家もある。之が豪傑を以て自ら任じてゐる紳々の所であるから噴飯に値する。

斯うした淺ましい雰圍氣の中で泰山が崩れ様とも、びくともしない餘裕の人を求めれば、先づ第一に君を推さねばならぬ。

齋藤内閣の時、文部大臣に決定してゐて、内閣の都合でオヂヤンになつた時等も「鰻の香丈けだつたよ」と大口を開けて笑ふ丈けのゆとりを持つ君である。

君はシャレも飛ばせば、冗談も言ふ、和歌、俳諧にも有名な青嵐の號があれば、太公望にも腕を持つ。正に政界切つてのユーモリストであり、貴族院の水戸黃門である。俳句に綿入りと謂ふ言葉があるが、これも君の創始にかゝる。嘗て野



田大塊の俳句やら、寢言やら解らぬ句を評して「綿入り」の俳句だと與太つたのが流行の始まりである。

名は體を現すが、體も亦名に反かぬ。六尺豊かな挺々たる長身は、ユーモア味たつぷりである。鼻の眞ん中で生え揃はぬ八字鬚、鯨の様な大口、眼鏡の奥でヘッドライトの様に光る

目玉、悠長な口の利き方、之れ丈けを想像するだけでも、長者の親しさを覚える。

最初の東京市長時代、大震災横死者の氏名を鎮鑄に書き連ね、之を硝子箱に納めて高野山の地下に埋め、一萬年の後迄も記念に残して置かうと言ふ計畫を樹てた。君の情操がよく偲ばれる。二度目の市長の時、白

上祐吉事件の責を負ふて辭したが、君丈けに、世間も君の一身について寸毫も疑ふとしない。君の陰徳の然らしむる所である。數年前貴族院の壇上で、樞密院問題につき、愛國の熱情を吐露して満場を感激せしめた。君は風光明媚な淡路島の長者廿歳で已に郷里の中學校長や郡長を勤めた偉才である。



# 鐵道大臣

## 秋田清君

略歴  
德島縣選出衆議院議員  
前通信、内務政務次官  
前衆議院議長

衆議院議長の榮位と、隠然たる政友部内の地歩をかなぐり棄て、新政黨組織の昭和會にも趨らず、獨り政界の浪人とし、政界切つての策士として、その一舉手、一投足に微妙の政局を牛耳るものに秋田清君がある。

君は四國德島の産、生來神童と謳はるゝ明敏で、思慮深く遠大の希望を笈に載せて東都に出た君は、二十歳で判檢事試験に合格した。その後は三十歳で代議士となり、四十で大臣になる抱負を持つて致々として修養し、努力したと言ふ。なるべくして大臣の椅子は未だ實現しないが、堂々たる政界の勢力と、衆議院議長の榮冠は既に贏ち獲た。

君の特長は、細心の注意と、大膽な行動と、そして素晴らしい實行力とを兼ね備へてゐることである。この特長は政界切つての策士として完全に表現されてゐる。

田中義一が政友會の總裁の時、犬養木堂の幕下として革新俱樂部にあつた君は、犬養も嘗ならぬ政友會と、革新俱樂部を合併する案を樹てたが、君の周密なる思慮と、細心の注意とは完全に世間の眼を奪ひ、そして大膽なる行動はよくこの極めて困難な仕事を爲し遂げ、之が成立つた時は準の様な新聞記者連中も啞然として言ふ所を知らなかつた。之には勿論犬養の懐刀古島一雄が全責任を負つて、悲痛な公表をしたのであるが、帷幄の裡に策を環らし、之を遂行したのは君の力あつて始めて爲し了ふせたのである。政友會入黨後は實に隆々たる勢ひを以て勢力を張り、田中内閣では事實上の書記官長として、思ふ存分の怪腕を揮つたものである。

大衆に接し、大衆に關聯して仕事をする政治家には特に風貌や、態度が影響する所尠くない。風貌は生來のもので、決

してその人の持つ内容を直ちに表現するものではないが、その人の内容を十分に理解し得ない大衆は、その風貌や、態度から來る直觀に重點を置き、強いて獨斷的の解釋をつけたがる。あの人間は偉さうだとか、あの面魂は頼母しさうだとか、社會的に充分認識された人間にはないことであるが、さうでない者にとつては偶々斯様なクダラぬ事が相當大きな影響を及ぼすことがある。よく「あの顔が第一

氣に食はん」なんて喧嘩をしてゐる者を見受けるが、之には全く笑へないナンセンスを含んでゐるが、顔負けすること夥しい。

普選案通過の前後雷名を天下に馳せた、田淵仙人は何時でも酔つ

た様な顔をしてゐた。彼は事實酒屋の俸で酒焼けはしてゐたかも知れぬが、何時でも酒は吞まず、強いて一盃も乾せば金、時の火事見舞の様な眞赤な顔になつたものだ。それを知らぬ大衆は田淵の御面の直觀から「田淵の酔つばらい演説」などとう／＼彼を酒呑みにして終つた。演説の時、ガブ／＼



水を呑む田淵の癖が、酔つばらひの呑きひや水だとして裏書された。之等は笑話に等しい例であるが、政治家の風貌や態度から來る感じが、決して笑話では済まされぬ影響を與へてゐることが尠くない。

その風貌で損をしてゐる最も著しいのは、鈴木喜三郎と君であらう、若槻も決して良い方ではないが、彼には骨稽味があつて、反感が持てぬ、だが鈴木や君には、如何にも大衆の近寄り難い固さがあり親しみが持てない。

君の風貌は一見、傲岸不遜、どうも最良目に見ても親しみが持てないが人に對する場合は實に慇懃丁寧な所が多い。信する者に對しては、酬ゆる事厚く知人や後輩で彼の爲めに逆境を救はれたものも尠くない、人は君の風貌から來る獨斷の、推理を棄て、短刀直入君の豪腹な氣にぶつからねばならぬ。端睨すべからざる君の實行力が將來如何なる境地を開拓するか、政界に於ける唯一の惑星であり、實に有能の一資材である。



# 中島知久平君

略 歴

群馬縣選出衆議院議員  
前商工政務次官

「女郎や藝者ぢやあるまいし、さう簡単に政府とくつつけるかい」と大見榮を切つて、齋藤内閣に絶縁状をぶつつけ様とした、鈴木總裁も、いざ鎌倉と言ふ段になると、いやが應でも兵站部總裁である中島君の意見に従はねばならぬ。

眞先に來邸を求めて君の意見を叩くと、君は政黨に對する周囲の事情を懇々と説いて、今日決戦の時機に非ざることを力説した。言はれて見れば自分の面目等は考へても居られない。鈴木の腹は、情理を盡す中島君の一言に決定して、黨内の危機を脱し得たのである。

君が大政友會の行動を左右する地位を築き上げて、大勢力を揮ひ得ることは、資本主義爛熟期の原則として金に負ふ所も確にあらう。併し「中島の光りは金の光りだ」と嫉視するのは、群盲像を評するの譬へに洩れなからう。勿論公平に見て

今日喧傳せられる君の政界に於ける押しも押されぬ地歩は、政治的資力を切り離して論ずることは出来ない。

海軍大學に學び、海軍機關大尉としての慧眼の君が疾く我民間飛行界の將來に著目し、幾多の波瀾と、荊棘の途を経て民間飛行機王中島君の努力は到底凡人の企て及ぶ所ではない。そして今この巨大な財的背景と、洗練された識見を以て奔放自在に政界に驥足を伸べんとすることは、競争者流の大脅威であるに相違ない。

併し君の黨内に於ける現有勢力は、君が賣り込んだものでなければ、媚を呈して迎合したものでない。期せずして茲に至つた君の絶對的評價であると言はなければならぬ。即ち君の俠骨に結ばれて行く磐石の評價である、君は世間の政治

家と全く本領を異にした偉材である。政界游泳の上に型づけられた、一切の陋習を排して、その出所行藏を一貫した信條と理想に託して、著々と進境を開拓して行く不言の裡に素晴らしい飛躍力を發揮しつゝある。

君は潤澤な政治資金を、自己の勢力圏の擴大強化のみに散じ様とはしない。君は餘りにも現在に於ける政黨腐敗の原因と議會政治の没落過程を知り盡してゐる。

眞正面からちつとそれを見直す必要がある。政界の現状にも議員の頭腦的缺陷にも、政策の上にも、もつと眞剣に検討する必要を眞先に考へてゐる。

その意味から設けられたのが、日比谷、市政會館の樓上に於ける君の國政研究會である。それは君の政治家としての——然も代表的政黨陣營にある——政治觀を高らかに掲げる標識塔である。國政研究會は民間設備の、政治調査研究團體として最高峰を示せるものと評され、その組織は汎く政治、財



政、經濟、軍事、外交より思想、教育、社會問題等の多數部門に分れ、斯道の權威者と新進學者數十名に、外人學者も交つて、研究部を擔任し、明日の政治を汎ゆる角度から検討し更に一週一回廣く學者、經驗者を聘して講演會を開催すると言つた如く、君の旺盛なる研究慾は盡して餘蘊がない。

國政研究會にもせる所の集積記録は、君にとつて門外不出の貴重な未完成經典であつて、外に向つては重要なる對外國策となり、入りては緊迫せる國內諸問題の安全調整となり、これが纏て來るべき君の政治理論として、天下に貢獻する所のものとなる。

君の炬の如き眼光は、社會認識の非凡なる正確さを物語る。「俺は今後二十年間は勉學するんだ。」とボス政治の空疎な、インチキなる割據的支配力を排して、傘下に有能、學識の權威を糾合し、智謀の帷幄を形成して功を焦らす満を持して、泰然たるものがある。







拓務大臣

永井柳太郎君

略 歴

石川縣選出衆議院議員  
前拓務大臣

當代隨一の雄辯家の折紙を付けられたものの筆頭に、永井柳太郎君を推さねばならぬ。

交通も餘りない様な片田舎に行つて青年に「誰が日本で一番の雄辯家だ」と聞けば百人一様永井だと言ふ。事程さうに永井と雄辯とは一體を爲して離れない。

護憲運動の當時、憲政の神様ともて囃された犬養、尾崎、島田の辯舌も實に大したものだ。現代に於ける中野正剛、牧野良三の論調も確にいゝ。

だが全國の青年層から雄辯の神様に祭り上げられてゐるのは何と言つても永井である。その明々たる音聲と、流暢な言ひ廻しに、所説の雄大なる構想とは、時にユーモアを交へ、熱誠を加味し、抑揚の妙を盡して、聴衆を全く自己の藁籠中のものにして終ふ。

演説を聞いてゐる人に何處がいゝと言ふと、之も亦異口同音に「何處がいゝ、此處が悪いと區別はつけられぬ、聽いてゐるうちに不知不識、陶酔境に入つて終ふ」と言ふ調子で、こうなると雄辯も完全に藝術の部類にはいる。

地方の黨關係の青年が、三十錢位の木戸を取つて永井君を迎へ、講談張りに二、三席もまくし立て、貰つて、それで費用を拂ひ、盛大な慰安會をやつてゐる連中を従來往々見受けだが、當の永井君は勿論無料率仕で、暇さへあれば、喜んで青年の迎へるに委せてゐる。聴衆は黨を論ぜず、何時も超満員で、梁にでも、窓にでもぶら下つてゐてもいゝと言ふのだから全く死物狂ひである。

それだけ全國に於ける、永井ファンは青年層を埋め盡して

ゐる。政談演説で以て入場料をとり、それで何時も満員の大入袋を出す豪勢なのは我政界に尾崎學堂と永井君の二人である。どちらが先鞭をつけたのかは察にしないが、その使途に於て、尾崎氏のはそれを自分の選挙費用の一部に充當するの

に反して、永井君のは主催者の會場費等に支辨される相違がある。演説を通じて見る君の性格は、圓滿な調和性に包まれた、明朗な心境である。

骨を削り、肉を蝕むと言ふ様な辛辣性のない代りに、何時でも絢爛豪華な槍舞臺に、名人を偲ぶよすががある。それでゐる物事に何か理窟をつけねばすまぬ、性格の面白い反面がある。君は決して權謀、術數を帷幄の裡にめぐらす政治家ではない。博學に埋れた識見と、雄辯の人である。それだけに新刊は勿論、和漢洋の讀書に費す努力は想像に餘りある。

何時とはなしに小大隈と謳はれて、政界を調歩する君が、愛好する全國の青年層を糾合して起つ日があれば、必ずや一

大の風雲を捲き起し得ることを信ずる。

嘗ては名コンビとして、民政黨に論陣を張つた中野は智謀縦横、才能に委せて高速度輪轉機以上に政界をハイキングして、才人に斃るゝのおそれなしと

しないが、君は泰然、政界の風雲を凝視して、靜に識見を養ひつゝ太公望の古訓を稽ひつゝある。

溫和でゐて、ズバリと切つて落す裁斷がある。嘗て君が地方の縣會議員の選挙應援に臨んだ時、三名の定員に四名の自黨候補者が亂立して、支部長がその裁定に苦しみ抜いてゐ

た時、前後の事情を聴取して演壇に起つた君が、快刀斷麻の辯を揮ひ、獨斷で三名を公認して、満場の喝采を博したことは今もあり／＼と其時の光景を彷彿することが出来る。

望むらくは君の偉大なる雄辯と、政治的足跡とを、永く史上に載する日の近からんことを翹望する。

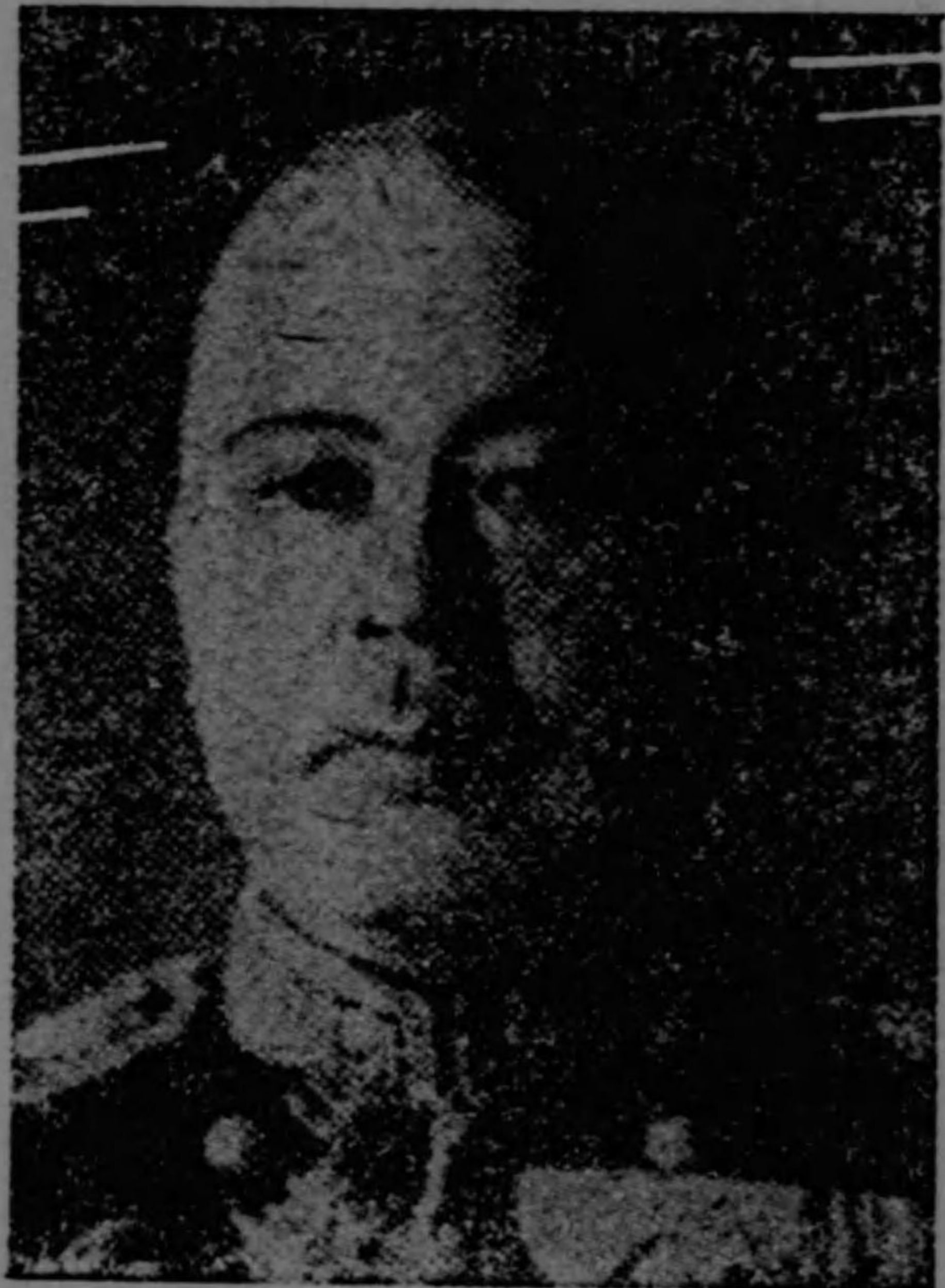




海軍大臣

大角岑生君

略 軍事参議官  
現海軍大臣



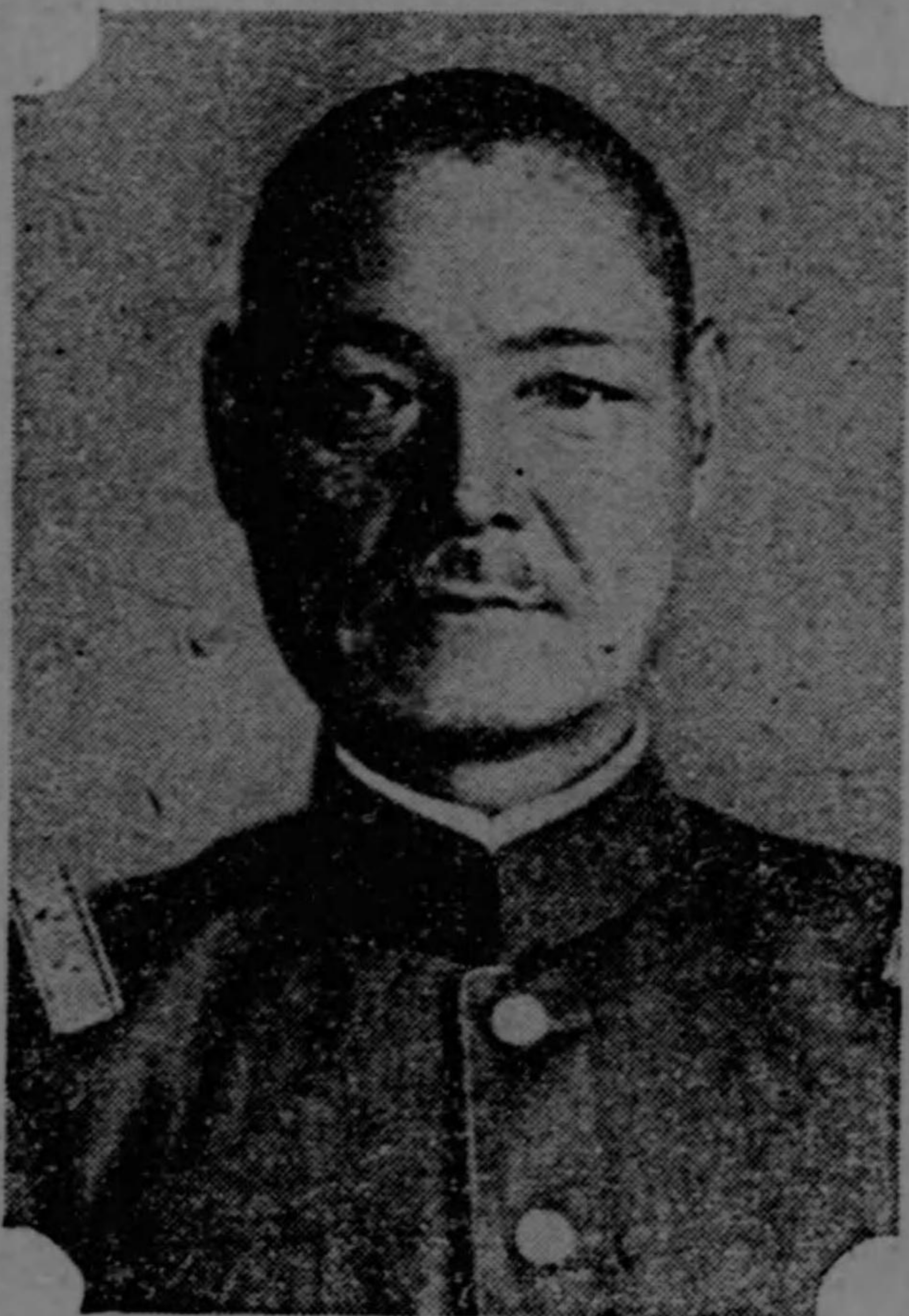
國防の充實は國民生活の安全瓣であり、國家を泰山の安きに置く無言の威力である。岡田内閣が軍縮會議に對する一大使命を荷つて成立したが、之と同時に海軍部内の信望を一身に集めた、大將大角岑生君を再び閣内に呼び入れることの出來たのは、實に上々の首尾と言はねばならぬ。

今日の危機を前に、日本海軍の全責任を負つて起つた君はその膨大な風貌を以て充分國民を信頼せしむるに足る。昔から「大男總身に智恵が廻り兼ね」と言ふが、君は反對に主智的で太つた身體に滿身の智恵が溢れてゐる。そして豪放磊落な豪傑的の中に案外

陸軍大臣

川島義之君

略 軍事参議官  
現陸軍大臣



「いま陸軍大臣を自分から買つて出やうと言ふ者など恐ろくないだらう」とは、現陸相川島君が就任の日に訪問の記者に向つて投げかけた言葉である。誠に今日の陸軍は餘りにも尤大な餘りにも切迫した重大問題が山積してゐる。之を切り抜けるの容易でないことは誰しもが想像がつく。軍事参議官の探題を棄て、血戦の現地に著くには固より死を覺悟せねばならぬ。君は靜に語を繼いで「併し、いざ引受けた以上、やつて見やるぞ」おゝそこだ、非常時の疾風怒濤のさ中に、採算を割つて、一身を犠牲にし、最後の御奉公を臻すべく慨然起つ

た川島の胸中には燃ゆる信念が渦を捲いて溢れつゝあらう。林辭任後に於ける後任詮衡の條件は「林陸相の政策方針を全幅的に踏襲し林の達し得ざりし所期の目的を達し得る可能性に富むもの」にあつて、その白羽の矢が君に立てられた譯であるが、この大きな期待が果して、君の卓越した力量と手腕とによつて完璧を期し得るであらうかは、今後に俟たなければならぬ。昨年八月十二日陸軍省に於ける永田軍務局長の奇禍と同時に、林陸相の辭意は既に固く決せられ、後任陸相の詮衡に焦慮した。誰か、關東軍司令官南次郎、教育總監渡邊錠太郎、軍事参議



官眞崎甚三郎、侍從官長本庄繁、軍事參議官阿部信行、同  
荒木貞夫、同川島信之、東京警備司令官西義一、朝鮮軍司令  
官植田謙吉、臺灣軍司令官寺内壽一、參謀次長杉山元、第五  
師團長小磯國昭、と拉し來つて、君の選任は蓋し好個のもの  
である。

併し岡田内閣の樞要人物であつた、林陸相が頼やつれ、身  
細る迄努力したが、事志に反し、遂に「國軍の内部に於て、  
前代未聞の不祥事」を惹起した。人事行政と、幾多の難問題  
を双肩に擔つて立つ君には、軍政の上に悲愴の決意がなくて  
はならぬ。君は先に糟糠の妻を失ひ、又次いで、たつた一人  
の長男を二十六歳でなくした、轉刺不遇の君が家庭的寂寥を  
有爲の青年、將校に慰められつゝ、談笑するのを唯一の樂し  
みとしてゐるが、君の温情の迸りが茲に胚胎することは疑ひ  
ない。極めて無慾恬淡で、寡言實行、誠實敦厚の立派な人格  
は夙に部内は勿論、廣く國民の認むる所である。

君が年少、陸軍士官學校に人生の駒を振り出してからは、  
殆んど中央部勤務の連続で、實に幸福に満ちた行進振りであ  
る。然し特によく時代の推移を知り、新知識を吸収し篤學で  
素養ある君が、今日の信望を以て、著々その實績を收めて行

き得ることは確實であらう。四國愛媛の一角で、對岸に血煙  
る西南戦争の砲聲をきつゝ、靜に母體に宿つた君の斗の如  
き膽が、帝國陸軍の勢威を負ふて、いま非常時日本の試練に  
乗せられた。健在を祈つて已まぬ。

昭和十一年一月十七日印刷  
昭和十一年一月二十日發行

送料價二十錢

著者 近藤素明

東京市牛込區南榎町六十九番地

發行所 梶原計國

東京市芝區田村町六ノ廿一番地

印刷所 新興社印刷所

東京市牛込區南榎町六十九番地

發行所 政治公論社

法學士 近藤素明 著

憲政ノ危機ト

定價十錢

# 木堂主義

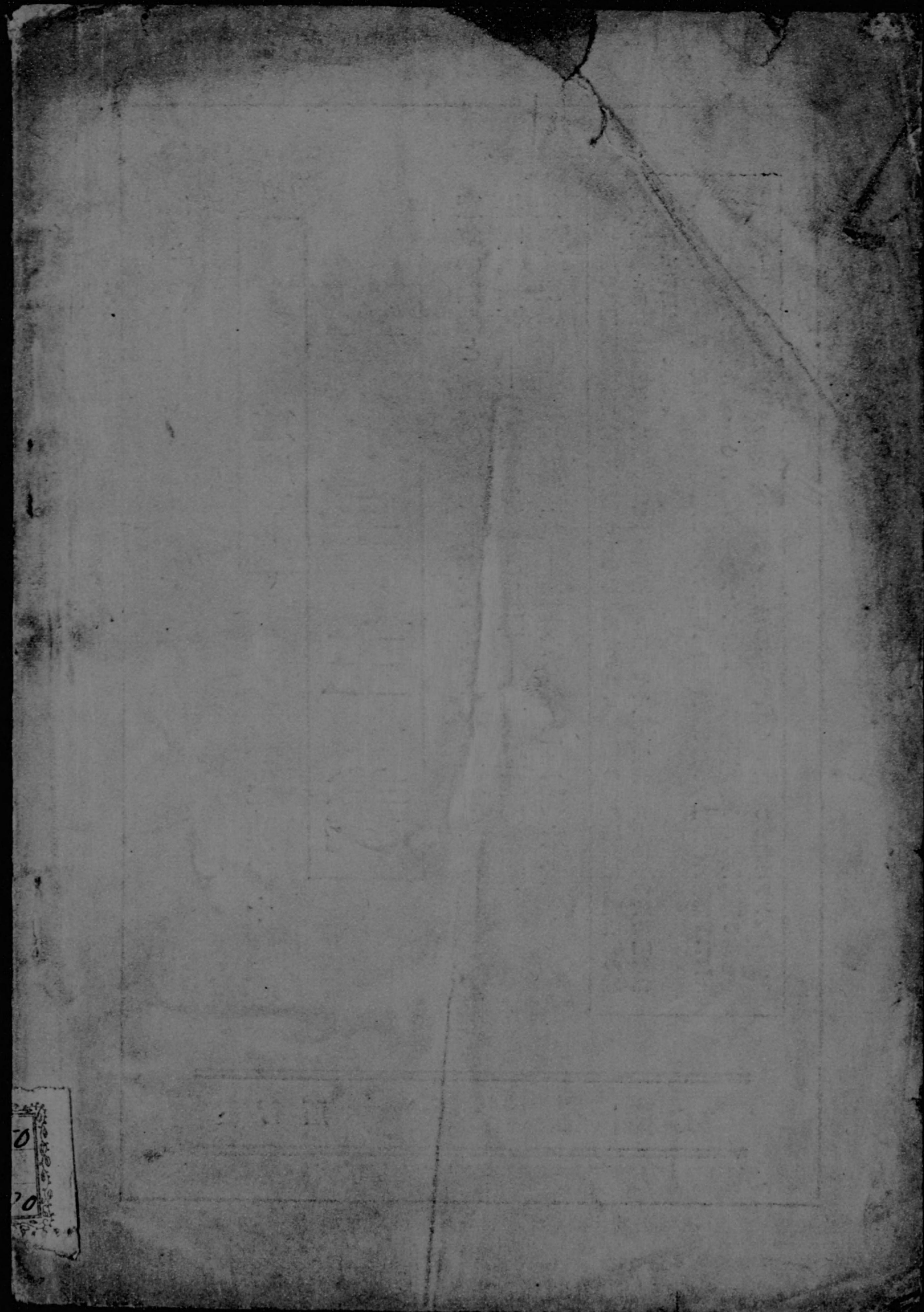
憲政の危機と時局の解剖——憲政の確立——選挙の肅正  
提唱の理由——政治的思想と足跡——憲政擁護の主張  
銃彈餘塵——殉教の聖者——玉成された人間木堂

非常時局の打開は憲政の更生確立に依りてのみ達成せられむ。憲政の更生確立は木堂主義の宣  
揚と實現とに依りてのみ達成せられむ。木堂主義とは何ぞや、木堂先生五十餘年の政治的行徑  
を一貫する信念即ち是也。

と冒頭した著者は紛淆せる時局に鏡像のメスを揮ひ、肅正運動の核心を剔抉して赤裸々に之を  
批判し、従来の諸説と全く異つた独自の觀點から、豊富な教材を拉し來つて憲政擁護の新主義  
を主張してゐる。苟も憲政を至念するものゝ一讀せざるべからざる近來の快著である。

政治公論社 發行所





20